

故郷の人物を知ろう

おん こ ち しん  
温 故 知 新

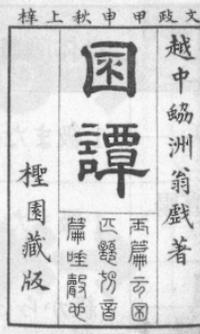
たかおか

マルチな文芸家／寺崎 蛭洲 (1761～1822)

蛭洲は江戸後期の文人です。名は一貫、字は孟  
怨・伯道。蛭洲は号で他に桜廂・紫苑斎・鶯幽霊な  
などがあります。高岡開町以来代々町役人を務めた三  
木屋に生まれ、通称は三木屋半左衛門（三樹一貫・  
木一貫とも）。壮年になって京都で儒学者の村瀬栲  
亭・皆川淇園に漢詩文を学びました。また蘭学者の  
大槻玄沢や江戸の四詩家と称される大窪詩仏ら著名  
人と交流がありました。

蛭洲の和漢の文芸・歴史に通じた幅広い知識・教  
養と機知・諧謔に富んだ性格は人望を集め、高岡で  
は文壇の盟主として活躍し、長崎浩斎（蘭方医。林  
忠正の祖父）ら多くの門人を育てました。多才な蛭  
洲は著作も多く、随筆『桜廂漫筆』、漢詩集『蛭洲  
詩草』・『蛭洲詩稿』の他、漢文小説『蛭洲餘珠』

(1819年)、漢文笑話集『<sup>へんたん</sup>困譚』(1824年)、さら  
に浄瑠璃本『月影御前謎物語』まであります。俳諧  
集『狐の茶袋』初編(1816年)は、蛭洲を撰者に  
句を募りたいという門人からの要請に応えたもので、  
いろいろな人の句が集められたことから、当時の庶  
民の生活感情がうかがえる資料となっています。『狐  
の茶袋』は、好評だったようで昭和に至るまで続編  
が刊行されました。  
(仁ヶ竹主幹)



『困譚』1824年  
(京都大学附属図書館所蔵)部分



『狐の茶袋』初編、1816年  
(高岡市立博物館蔵)部分

問合先 博物館 TEL 20-1572